

令和2年度 滋賀県環境審議会環境企画部会（第1回）（書面開催）

環境企画部会委員からの意見等に関する回答（案）

全体的な意見等	回答
<p>基本的な考え方や方向性として適切であると考えます。</p>	
<p>大きい方向性について異論はありません。 大事な点がよくまとめてあると感じました。</p>	
個別の意見等	回答
<p>【資料1-1】「3. 検討状況および課題の整理」の部分 協議会で整理した5つの課題のうち4つめの「・持続可能な社会づくりを支える人材が育つこと」以外は「関わる」「気づく」「取り組む」「学びあう」というように行為を示しているのに対し、これだけが成果目標を示しており、異質な印象を受けます。このような人材として育つのに必要な学習行動を課題として挙げた方が統一性があり、かつ具体性が出るので良いように感じました。</p>	<p>ご意見いただいた内容につきまして、検討します。</p>
<p>【資料1-2】「課題」「県の施策の展開方向」の部分 持続可能な社会づくりを支える人材が育つ について (1) 人材育成および活用 について 「持続可能な社会づくり」を行うためには、環境学習において、以下の2点が重要であると考えます。 その質（最低限おさえるべき視座）をどう担保するか 社会問題の解決のためのアプローチをどう組み込むか かつて県の環境学習推進員を務めた立場から申し上げます。県内で実施されている環境学習プログラムの内容について、またそれを担う指導者の方針について、評価する仕組みがありませんでした。 プログラムも指導者の力量も玉石混濁です。たとえば、いま目の前に落ちているごみをなくすことと、ごみを生み出さないシステムに社会を変革することでは、小手先で終わるか根本的解決をするかの違いがあります。持続可能な社会づくりには、予防的な社会のデザインが欠かせません。それには、めざす持続可能な社会はどのような姿であるのかのビジョンを明確にすること、そこへのロードマップをバックカスティングで描くことが、現在の日本の環境学習に足りない部分だと考えています。こういった本質を学習者にきちんと学んでいただくためには、その質の担保を施策に盛り込む必要があると思います。 また、ある環境問題の解決のために、社会の中で自らがどのようにふるまえばそれが実現するのかということを学ぶ機会が日本の学習環境では欠けていると思います。シチズンシップ教育の視点を盛り込んでいただければと思います。</p>	<p>施策の実施にあたって、ご意見を踏まえて検討します。 なお、環境学習推進計画の上位計画である第五次滋賀県環境総合計画で2030年の目指す将来の姿を示しており、その社会の実現に向け、「持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着」を施策の方向性の一つに位置付けています。この方向性の中で環境学習が重要な役割を果たすと認識しています。</p>

<p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンの小学生は学校で「デモ」を習う https://note.com/yoompo/n/na580c6064051 ・ドイツの小学生が「デモの手順」を学ぶ理由 https://toyokeizai.net/articles/-/193857 	
<p>【資料 1-2】「推進体制」の部分</p> <p>これは計画ができてからの話になるかと思うのですが、環境学習センターを琵琶湖博物館内に置く現在の形では、有効に機能しないと思っております。県内部にてご検討をお願いいたします。</p>	<p>ご意見を琵琶湖博物館とも共有し、環境学習支援機能の充実に向けて検討します。</p>